

2010年11月25日

北海道知事 高橋はるみ 様

北海道脱ダムをめざす会

11月1日、貴職は、私たちとの会見において「国交省からの指示に基づいて検証作業を進めるとともに、皆さまの意見も十分に聞いていきたい」と発言しました。また、当日のNHKの番組放映によりますと、貴職は「予定の自治体などと検討の場を設け、国にも地域の意見を適切に述べていく。皆さんの熱意と思いを再認識できて有意義であった。公開の場で意見を聞き集約していきたい」と述べました。そのため、私たちは、「貴職が国交省の指示に基づいて検証作業を進めるが、私たちの意見も聞いて集約していく」と理解しております。

（ 私たちが11月1日に提出した「サンルダム、二風谷ダム・平取ダムおよび当別ダムに関する要望書」に対して、貴職から11月18日に回答をいただきました。しかし、その回答は、私たちの意見をどのように聞いたのか理解できないものでした。そこで、あらためて要望書を提出いたしますので、文書によってご回答いただけますよう、宜しく願いいたします。

なお、回答は、12月9日までに北海道脱ダムをめざす会の事務局を担当する北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel：011-251-5465、FAX：011-211-8465）宛にお願いします。

#### サンルダム、二風谷ダム・平取ダムおよび当別ダムに関する再要望書

（ まず、11月1日に提出した要望内容について、あらためて以下の事項1の要望をいたします。この要望について文書でご回答をいただくとともに、お互いの理解が進むよう話し合いを行うよう求めます。

#### 要望事項1「直轄ダムおよび補助ダムの個々のダムの検証作業方法」について

私たちは貴職に対して、10月4日に「私たちの提言が検証作業で取り上げられること。そのために、検証作業において北海道と私たちとの意見交換が実現するようにすること。」を求め、11月1日には具体的方法として2つの方法を提案しました。

今まで私たちの意見は流域委員会や再評価委員会に向けてのパブリックコメントとして提出しましたが、残念ながら私たちの意見が採り上げられることはほとんどありませんでした。この原因は、パブリックコメントは意見が採り上げられない限り、一方向の意見提出に終わってしまう点にあると考えます。そこで、これを改善するためには双方向の意見交換のための話し合いが必要です。その具体案として、11月1日の要望書において二つの方法を提案した次第です。

貴職におかれては、検証作業においてダム推進の考えとダムによらない河川整備の考えの双方向での意見交換が実現するお考えがあるのかをお示しく下さい。

また、以下の要望事項は、各ダム計画について、これだけをご検討いただきたいとして貴職のお考えをお聞きしたのですが、11月18日付けのご回答には、私たちの質問に対するお答えがほとんど見られませんでしたので、あらためてお聞きします。

#### 要望事項2「サンルダムの必要性の根拠」について

貴職のご回答は、1) 北海道開発局が「中間とりまとめ」に沿って検証作業をするであろう、2) 北海道としては「関係自治体からなる検討の場」において国に対して意見を述べる、の2点であり、私たちが述べた「サンルダムの必要性の根拠」についてまったく触れていません。このように、パブリックコメントなど国民・道民の意見聴取では尋ねた内容に対する回答がないことがしばしばあるので、私たちはパブリックコメントには限界があると考えています。そこで、あらためてお聞きします。

私たちは、サンルダムを建設する目的が時に応じて変化しており、本当にサンルダムの必要性があるのだろうかという疑問を示し、貴職のご回答をお聞きしました。道民に責任をもつ貴職は、サンルダムがなぜ必要とお考えなのか示す説明責任があると考えます。必要性がはっきりしないダムに税金を投入することはムダであり、さらに環境破壊以外の何ものでもないからです。天塩川流域にサンルダムが必要とお考えの根拠をお示しく下さるよう、重ねてお願いいたします。

#### 質問事項3「二風谷ダムの堆砂問題と平取ダム建設の是非」

貴職のご回答では、1) 二風谷ダムの堆砂は適宜放流設備の開放などを行うことによる、ダムの機能が損なわれることはないと考えております、2) 「中間とりまとめ」に沿って検証作業がすすめられると承知しております、の2点が述べられています。

しかし、二風谷ダムの堆砂は竣工後年々増加しており、開発局は2007年に堆砂容量を竣工時の550万 $\text{m}^3$ から1,430万 $\text{m}^3$ に変更しましたが、2009年10月には1,368万 $\text{m}^3$ の堆砂があり、2010年にも変更した堆砂容量1,430万 $\text{m}^3$ に達しようとしています。貴職は、二風谷ダムの放流設備とその機能をどのように認識しておられるのでしょうか。

二風谷ダムには、土砂を排出する7基のオリフィスゲートがあり、調べた結果によると、年間のかなりの期間でオリフィスゲートが開けられ、土砂を放流しているにもかかわらず、ダムの堆砂が年々増加しています。ちなみに、二風谷ダム下流では泥の多い水が放流された結果、地域住民は沙流川の環境が悪化していると訴えています。このようにゲートを開けても堆砂が増加していること、ダムの機能が損なわれている事実に関して、貴職のご回答によると、貴職は開発局の説明を納得されているように思われますので、その根拠を私たちにお示しく下さい。

また、貴職は、平取ダムに関する開発局による検証作業を見守る立場を示していますが、2つの問題があります。私たちが指摘するように、1) 二風谷ダムの堆砂が年々増加するならば、二風谷ダムは年々危険なダムになり放置することは許されないが、北海道はどのように考えるのか、2) 私たちは、2003年の洪水結果を調べて、平取ダムは不要と考えて質問をしましたが、これについての回答はありませんでした。平取ダムの建設が予定されている額平川流域は土砂発生量が多いと推定されるので、二風谷ダムの二の舞となり堆砂が進行する可能性が高いと私たちは危惧しています。

二風谷ダムのオリフィスゲートは高さ6m、巾8mで、これが7基設置されています。一方、平取ダムの排砂ゲートの大きさは明示されていませんが、同様の規模と考えられます。平取ダムでは排砂ゲートは1基のみです。雪解け水時に排砂ゲートを全開して堆砂を排出するとしていますが、堆砂はダム上流部から始まることや排砂ゲートの大きさから考えると堆砂がすべて排出されるとは考えにくいことです。この点について、北海道開発局にまかせるのではなく、北海道自身で検討すべきと考えます。

#### 要求事項4 「札幌市の水道水需要予測と当別町の水利権問題」

貴職は、私たちの「札幌市の水道水需要予測は過大である」との質問に対して、「第三者委員会が適切と判断したので、適正に評価された」という認識を示しました。札幌市の1日最大給水量は、過去約20年間60～66万 $m^3$ /日で推移してきたのに、人口減少が明らかな15年後の2025年に、1日最大給水量が現在の札幌市の水源保有量82.8万 $m^3$ /日を越えるという予測は率直に言って誰もが理解しがたいことです。これが適切だとする第三者委員会の見識が疑われます。この第三者委員会は、5名の委員で構成され座長は札幌市営企業調査審議会（水道部会）の部会長が兼任しており、事業を推進している立場の人が座長をしていることは審議の公平性、客観性が疑われます。さらに、第三者委員会は、たった2回の審議で事務局案を追認したことから適正に評価したとはいえません。

貴職は、「現在の河川の流量に余裕がないため、新たに水利権を認めることは困難」と回答しました。私たちは、「当別町は現在暫定水利権を行使していますが、当別川の水が不足したということは起きていません。それは、暫定水利権の量は当別川の渇水時の4%程度しか占めないからです。」という考えを述べました。貴職におかれては、1) 現在の暫定水利権の下で、水道水利用のために当別川の流量に余裕がなく、暫定水利権も利用できない事態が生じたのか、2) 暫定水利権は当別川の渇水時の4%程度ですが、渇水時の4%が水道水のために取水されるならば当別川の流量に余裕がなくなるという根拠があるのか、これら2点について明解な回答をお示しいただきたい。

#### 要求事項5 「名寄川と当別川の目標流量」

貴職は、「名寄川の目標流量：1,500 $m^3$ /秒は、天塩川流域委員会の論議も踏まえて総合的に決められたので妥当である」と回答されました。天塩川の目標流量は、基準点菅平の最

大実績流量(4,400 m<sup>3</sup>/秒)として決めるとしたものです。しかし、名寄川真敷別では、1,500 m<sup>3</sup>/秒の流量は1,200 m<sup>3</sup>/秒に比べて被害が大きくなるので、目標流量として想定被害額から選定されたものです。目標流量を大きくすれば想定被害額が増えるのは当然です。北海道開発局は、名寄川の戦後最大流量1,115 m<sup>3</sup>/秒に近い1,200 m<sup>3</sup>/秒を目標流量とすれば、サンルダムが必要ないことを明らかにしています。基準点で戦後最大実績流量を目標流量としながら、名寄川真敷別でのみそれを大幅に上回る目標流量とした疑問については、未解決のまま、天塩川流域委員会は終了しました。以上の矛盾について、開発局の言い分ではなく、北海道自身のお考えを明解にお示しいただきたい。

貴職は、当別川の目標流量について、当別川河川整備計画検討委員会で了解されたとの意味を述べられました。この検討委員会の議事録を読みますと、提案された目標流量が妥当かどうかについてほとんど議論されていません。また、戦後最大の洪水となった昭和56年(1981年)の被害は、その後の当別町議会の議事録を見ても、破堤による被害ではなく内水氾濫によるものです。そうであれば、当時の議会が求めていた排水機場の増設で対処すればよいことであり、ダムの必要性に結びつきません。莫大な予算を使い、河川環境を著しく悪化させてまでダムを建設する必要があるのか、当時の河川整備計画検討委員会および当別町議会議事録を見て、再度検討した結果によるご見解をお示しください。

以上

#### 北海道脱ダムをめざす会の構成団体

(社)北海道自然保護協会 会長 佐藤謙  
十勝自然保護協会 共同代表 安藤御史・佐藤与志松・松田まゆみ  
北海道自然保護連合 代表 寺島一男  
富川北一丁目沙流川被害者の会 代表 中村正晴  
平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男  
苫小牧の自然を守る会 代表 館崎やよい  
ユウバリコザクラの会 代表 藤井純一  
イテキ・ウエンダム・シサムの会 代表 佐々木義治  
胆振日高高校退職教職員の会 代表 高橋 守  
自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子  
下川自然を考える会 会長 千葉永二  
サンルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男  
名寄サンルダムを考える会代表 竹内 和郎  
環境ネットワーク旭川地球村 代表 山城えり子  
大雪と石狩の自然を守る会 代表 寺島一男  
旭川・森と川ネット21 代表 平田一三  
当別ダム周辺の環境を考える市民連絡会 代表幹事 安藤加代子

## 巻末資料

私たちは、ダムの問題点（治水・利水・環境）を多くの学識経験者に教えてもらいました。今回の要望書は、これらの学識経験者の講演や話し合いから学んだことが多くありますので、以下に私たちが教わった学識経験者示します。（ ）は教わった内容を示します。

- 宮本 博司：元国交相官僚、元淀川水系流域委員会委員長 （治水全般）  
今本 博健：京都大学名誉教授 元淀川水系流域委員会委員長  
（治水全般、沙流川水系の治水）  
大熊 孝：新潟大学名誉教授 （サンルダムの治水）  
小野 有五：北海道大学教授 （サンルダムの環境、当別ダムの治水）  
前川 光司：北海道大学名誉教授 （環境全般）  
嶋津 暉之：水源開発問題全国連絡会共同代表、元東京環境研究所勤務  
（天塩川・沙流川・当別川の利水、天塩川と当別川の治水）  
稗田 一俊：写真家 （当別川の環境問題）